

# 源

*The Tale of Genji*

by Murasaki Shikibu

# 氏

# 物

# 語

普遍と変幻。光と闇。千年を生きる物語。

首里城・守礼門の描かれた二千年札。

裏には、光源氏と不義の息子、冷泉院が対面する『鈴虫』の場面が描かれている。

それは、『源氏物語』が皇室不敬の文学といわれた戦前、とくにタブー視された部分であった。

さらに儒教が伝播した江戸時代まで遡れば、その書物は淫乱を唆すもの以外のなにものでもなかった。

そうした不遇の時代を経て、千年の命を湛え、

謎めいた香りを秘めたまま、我々を惹きつけてやまない、世界最古の小説。

今、その魅力を解き明かし、さらなる深みへと誘う秋がやってくる。

宮城野の露吹き結ぶ風の音に

小萩が本を思ひこそやれ (桐壺)

## 主人公、光源氏

光源氏は、桐壺帝の第二皇子として生まれ臣下に下るものの、その美貌と才能、資質から、人々の憧憬を集め、幾多の恋の遍歴を経て、やがて俗権最高の地位、准太上天皇に達した後、五十余才で物語を去る。肌は白く、ほっそりとしなやかで「頸細し」。官能的な美しさを有している上、頭がきれ、とっさの機転に長けている。しかも純粹で、ときに激情にかられて暴走しながらも、一度契りを交わした女性をいつまでも見守るような心長いあたたかさもある。さらに詩文から書画、音楽、舞踊などに抜群の才能を発揮する風流人でもあった。紫式部が光源氏を創り上げた経緯については諸説あるが、未亡人となり希望を失いかけた作者にとってのまさに「光る君」、理想の男性像であったことは間違いない。

おなじ野の  
露にやつるる藤袴  
あはれはかけよかことばかりも

〔藤袴〕



『源氏物語』(絵入)桐壺。1650年 静岡県立中央図書館蔵

『源氏物語』は、全五十四帖からなる平安時代の物語である。

作者紫式部は、文章生出身の文人藤原為時の娘で、その家系は名門、開院左大臣藤原冬嗣の流れを継ぐ。

さらに曾祖父堤中納言兼輔は、三十六歌仙の一人であり、一族に有名歌人が多いことから、文芸に秀でた血筋であると思われる。

幼くして母を亡くし、また、有能官吏であった藤原宣孝との結婚生活も束の間、わずか三年で未亡人となるなど、その半生は決して恵まれたものとは言い難い。

しかし、早くから世にきこえた文名から、式部はやがて一条天皇の中宮彰子(藤原道長の娘)に仕えることとなる。

宮仕えの日々の中、道長らの庇護のもとで『源氏物語』を書きすすめ、十数年の歳月の後、ついにこの長編物語は完成するのである。



”……物げなきわれもかうなどは

いとすさまじき霜枯れの……”  
〔句集〕

## “二十一世紀にわかに”源氏物語現象

昨年、映画『千年の恋 ひかる源氏物語』が公開された。主人公光源氏役を女性が演じたことでも話題となったが、その絢爛たる絵巻は人々の目を奪い、見事、日本アカデミー賞美術賞に輝いた。それと前後して、源氏物語関連の書籍も数多く店頭を飾るようになった。

千年の月日を経て、なぜ今、ゲンジなのだろう。それは単なる二千年札発行の恩恵ばかりとはいえない。それどころか、新札発行もまた宿縁によるもの、歴史の大きなうねりによる必然ではないかという気さえする。

紫式部が『源氏物語』を書いたのは、長保から寛弘、長和にかけて、西暦ちょうど二〇〇〇年前後のことではないかといわれている。当時の識字率でいえば、ほんの割ほどだからベストセラーといってもそれほど大した数ではない。が、この物語は平安のその一時にとどまることなく、転写というカタチによつて流布伝播し、ネズミ算的にその読者を拡大していったのである。

つまりこの小説には、幾代にもわたつて人々を虜にするチカラ、普遍性

と求心力があった。現在『源氏物語』の魅力については、専門家たちが多角的に研究し解説しているが、一言でいえば、その大きさ、深さ、豊かさに尽きるのではないだろうか。

たとえば、登場人物。その数およそ四三〇名。主な人物だけでもおそろく五〇名は下らない。その一人一人について、式部は実にこまやかに血の通つた人間として描いている。しかも、そうした興味深い人物たちを通して映し出されるのは、高雅と通俗、光と影、喜びと苦悩といった相反するものによつて浮きぼりにされる、普遍的な人間の営みにほかならない。

……というようなことを読みこむまでもなく、『源氏物語』は、名場面連続である。事実とフィクションが融合された目のくらむような雅なる世界は緻密なまでに描写され、宮中での遊宴と恋愛の日々はまさに溜息、垂涎の暮らし。ちなみに二十代の源氏が得ていた地位、従二位太政大臣の年棒は、現代の貨幣価値で約六億円とか。そんなまるで夢のような世界のお伽話が、ときにリアリティをもって我々の心を喚起し、挑発するのも、すべてその高い描写力ゆえ。今なお生き続ける、千年の書ならではである。

## この秋、五感で読み解く、雅の向う側。

『源氏物語』は、世界的に見ても偉大な古典として君臨する世界最古の小説である。初めてヨーロッパに紹介されたのは、十九世紀の終わり。以来、シャイニング・プリンスとレディ・ムラサキの名は、世界中の人々の知るところとなった。

さて、長大にして複雑いかにも難攻不落に思える『源氏物語』だが、現在、その攻め手は決して少なくはない。

まず、現代語訳がある。一口に現代語訳といっても、原文を重んじたものから、小説として再構築したもの、光源氏が生きた時代のみをまとめたもの、女性描写に重きをおいたもの、ダイジェスト版、絵草紙版とさまざま。また、源氏の世界をよりビジュアル化したのなら、コミックという手も有効で、実際のところ、ここから源氏を知る人もかなり多いと聞く。自分のオリジナルなイメージを創りにくくなるというデメリットもあるが、文字づらではつかみにくい小道具や暮らしがりがよくわかり、小説世界にグッと近づけることができる。当然ながらこの二十世紀、CDやDVD、ビデオなども用意されているので、聴覚、視覚から源氏絵巻を楽しむのもいい。それでもなお、最初にどの門を叩

くべきか、迷っているというのなら、まずはこの秋のグランシップから、という手があることをご存知だろうか。

言葉で、音で、アートを楽しむ『源氏物語』。案内役は、それぞれ独自のアングルと感性でその世界を「トク」にひもとくクリエイターたち。その顔ぶれだけを見ても、源氏の世界に負けず劣らずの贅沢さである。

深遠なだけでなく、高雅なだけでなく、今めかしく豊かなひととき。御簾の向こうに美しい面差しの女性を見つけたときの源氏の心、あるいは千秋の思いの後に源氏の訪れを得た女心もかくのときであろうか。読む源氏から、五感で楽しむ源氏へ。その日、新しい『源氏物語』との出会いに、胸ときめかせていただければと思う。



## あらすじ

『源氏物語』は、光源氏を主人公とする第一部、第二部と、源氏の息子である薫を主人公とする第三部からなり、第三部後半はとくに『宇治十帖』と呼ばれる。

**桐壺～藤裏葉【33帖】**  
光源氏は桐壺帝の第二皇子として生まれ、美しさと資質を愛でられるも、母方の身分が低いことから源氏性を受け臣下となる。父帝の妃藤壺との禁断の恋、空蝉、六条御息所、夕顔、末摘花、臘月夜君、花散里などの女性たちと数々の恋愛を経験。正妻葵上が息子夕霧を産み死去した後、藤壺の面影を紫上に求め妻に迎える。父帝亡き後、右大臣家に敵視され、須磨・明石にてしばらくの住まい。帰京後は政界に復帰して、藤壺との不義の子である帝(冷泉院)を助け、六条院を構える一方、明石君との間に生まれた娘(明石中宮)を春宮(今上天帝)の女御とし、源氏は准太上天皇となって栄華を極める。

**若菜上～幻【8帖】**  
源氏が兄朱雀院の姫女三宮を正妻として迎えたことで紫上の傷は深まり、病に臥し出家を願うようになる。一方、女三宮と柏木が密通し、やがて生まれた薫を源氏はわが子として腕に抱くことに。柏木は苦悩の果てに死去し、女三宮も出家。遭された柏木妻落葉宮に夕霧が通ようになる。さらに紫上もこの世を去り、源氏は追憶の日々を過ごす。

**匂宮～夢浮橋【13帖】**  
源氏の子として育った薫は出生に疑問を抱き、仏道の師として八宮を訪れるうち、長女宇治大君に恋をする。次女中の君を友人匂宮に世話をすが、大君の死後、今度は中の君につきまとう。さらに現れた中の君の異母姉妹浮舟をめぐって、薫と匂宮との間に争いが起こる。浮舟は入水自殺を図るが、横川僧都に助けられ出家。それでも浮舟をあきらめきれない薫を描き、物語は幕を閉じる。

# 源氏物語

in

GranShip

## 田辺聖子トークショー「源氏がたり」

10/6(日)

遙か千年も昔に書かれた壮大で複雑な長編小説『源氏物語』の面白さを田辺氏ならではの視点で明快に語るひととき。作者紫式部の真の意図を汲みあげ、物語としての読みどころ、登場人物の魅力などを紹介。源氏の世界がぐっと身近になる1時間30分。



PM1:30開場 / PM2:00開演  
グランシップ11階 会議ホール・風  
全席指定 2,000円  
辻村寿三郎人形展入場券付・税込

### 田辺聖子

作家。『感傷旅行』で芥川賞受賞。数々の作品で女流文学賞、吉川英治賞、菊池寛賞、読売文学賞、泉鏡花賞、井原西鶴賞など受賞。95年紫綬褒章授章、2000年文化功労賞顕彰。源氏物語において現代語訳、小説、エッセイ等著書多数。28年大阪府生まれ。 P11～参照

## 有馬稲子「源氏物語」朗読

～六条御息所～

10/13(日)

第1部では、辻村寿三郎氏をゲストに、光源氏と彼を取り巻く女性たちがお話しに登場。源氏絵巻の世界がトークショー・スタイルで楽しめる。続く第2部は、女優・有馬稲子が難役・六条御息所(光源氏の正妻葵の上を嫉妬にかられて呪い殺す年上の女性)の愛憎を体現。瀬戸内寂聴が訳した名作の世界を幻想的な朗読でおとどける。

PM1:30開場 / PM2:00開演

グランシップ 中ホール・大地

全席指定

一般・大学生 3,500円(当日4,000円)

中・高生 2,000円(当日2,500円) 税込



### 有馬稲子

俳優。49年宝塚歌劇団入団。53年東宝専属となり『ひまわり娘』で映画デビュー。54年にんじんくらぶ創設に参加。松竹移籍後も数々の名作に出演し、舞台でも活躍。紀伊国屋演劇賞、芸術祭優秀賞等受賞。『はなれ瞿女おりん』では芸術選奨文部大臣賞受賞。95年紫綬褒章授章。

## 辻村寿三郎人形展

～源氏絵巻縁起～

10/12(土)～27(日)



紫式部



桐壺



源氏物語をテーマに新作人形展を開催。源氏の世界を一大パノラマで紹介するほか、妖艶で美しい、独特の魅力を放つ辻村寿三郎の人形たちがもう一つの王朝絵巻を繰り広げる。また、新作のほか、これまでの代表作品もあわせて展示。

AM10:00～PM5:00(最終入場PM4:30)

グランシップ6階 展示ギャラリー

一般・大学生 600円(当日800円)

中・高生 300円(当日500円) 税込

●辻村寿三郎サイン会 \*図録ご購入の方のみ

10/12(土) AM11:00～、PM2:00～

10/13(日) AM11:00～、PM3:00～

### 辻村寿三郎

人形師。26才のとき幼い頃より趣味であった創作人形を一生の仕事と決意。74年NHK総合テレビ「新八犬伝」の人形美術で一躍脚光を浴びる。着物デザインから舞台・映画衣裳デザイン、演出、脚本なども手掛け、総合的なアーティストとして活躍。33年旧満州生まれ。

”  
……  
ひたすら世になくなりなむは  
言はむ方なくて  
やうやう忘れ草も  
生ひやすらん……”  
〔須磨〕

穂に出でぬ

もの思ふらし

しのすゝき

招くたもの

露しげくして (宿木)

## 光源氏、さかさまに行かぬ年月よ ～美しき男たちの「源氏 音かたり」～ 10/27(日)

光源氏、その栄華と苦悩の心象風景を雅楽と西洋の楽曲で描き上げる創作ステージ。源氏の心の揺れを音楽と言葉、舞、歌、花で綴るひととき。6人のアーティスト、当代の光源氏がおくる、たった一日限りの夢舞台をぜひお見逃しなく。

ちなみにタイトルの「さかさまに行かぬ年月よ」とは、若菜の下の巻に登場する源氏の名ぜりふ。掌中の女三の宮が懐妊し、その子の父親が自分ではないと知った源氏が、酩酊したふりをして、若い柏木に本当の父親はお前であることを知っているぞと、脅し半分嘆き半分に言った“君の若さもほんのひととき、逆さまに流れぬのが年月といふものだ”という意の言葉から。

出演/東儀秀樹(雅楽・舞)、橋爪淳(語り)、古澤巖(ヴァイオリン)、  
塩谷哲(ピアノ)、平尾憲嗣(テノール)、小川珊瑚(挿花)

昼の部 PM1:00開場 / PM1:30開演  
夜の部 PM6:00開場 / PM6:30開演  
グランシップ 中ホール・大地  
全席指定 S席8,000円 A席6,000円 税込

### 東儀秀樹

雅楽師。奈良時代より雅楽を世襲する東儀家に生まれる。高校卒業後、宮内庁式部職楽部で雅楽を学ぶ。筆業を主に、琵琶、鼓、歌、舞、チェロを担当。雅楽の魅力を生かした創作にも情熱を傾け、96年宮内庁退職。現在、作曲・公演・執筆・TVなどで活躍。59年東京都生まれ。



### 古澤巖

ヴァイオリニスト。88年・92年東京都交響楽団のソロ・コンサートマスターを務める。これまでにヨーヨー・マ、プレートニョフ、塩谷哲、熊川哲也らと共演。現在、東儀秀樹と『午後の汀』シリーズ、アイリッシュな『ダンシンググアィドル』など精力的に活動中。59年生まれ。



### 橋爪淳

俳優。82年映画『海峡』でデビュー。その後、映画『細雪』、NHK大河ドラマ『徳川家康』等に出演。83年ミュージカル『水仙の歌』で美空ひばりの相手役に抜擢。『若大将・天下ご免!』で主演。89年新宿コマ劇場で座長を務めた。他、『陽あたり良好』『春日局』など出演作多数。



### 塩谷哲

ピアニスト、作・編曲家。東京芸術大学音楽部作曲科中退。86-96年オルケスタ・デ・ラ・ルスのピアニストとして活動中、国連平和賞受賞、グラミー賞ノミネート。93年ソロ活動開始。幅広いジャンルでさまざまな音楽家と共演。多彩な音楽活動を展開。66年東京生まれ。



### 平尾憲嗣

声楽家(テノール)。国立音楽大学声楽科卒。現在、同大学院在学中。牧野正人氏に師事。『コシ・ファン・トゥッテ』のフェランド役でオペラ・デビュー。2000年『ランスへの旅』にルイジーノ役で出演。01年『ヴェルディ・マラソン』出演。静岡県出身。



### 小川珊瑚

花司。幼い頃より日本の古典芸能や茶華道、日本舞踊に親しむ。81年フラワーアレンジメントオフィス“アトリエ花”開設。91年平成芸術花院を開設し、花人の育成に務める。家庭画報の装花特集に度々登場。新能や音楽コンサートなど美術アレンジャーとしても活動。



## ハイビジョンシアター 「よみがえる源氏物語絵巻」 10/26(土)・27(日)

今からおよそ900年前、平安時代後期につくられた日本最古の絵巻『国宝・源氏物語絵巻』。この絵巻の描かれた当時の色彩を科学的に調査。そのプロジェクトの模様をNHKが2年間にわたり取材。精細な絵巻の美しい世界がハイビジョンで楽しめる。

午前の部 AM10:30～ / 午後の部 PM1:30～  
グランシップ2階 映像ホール 入場無料

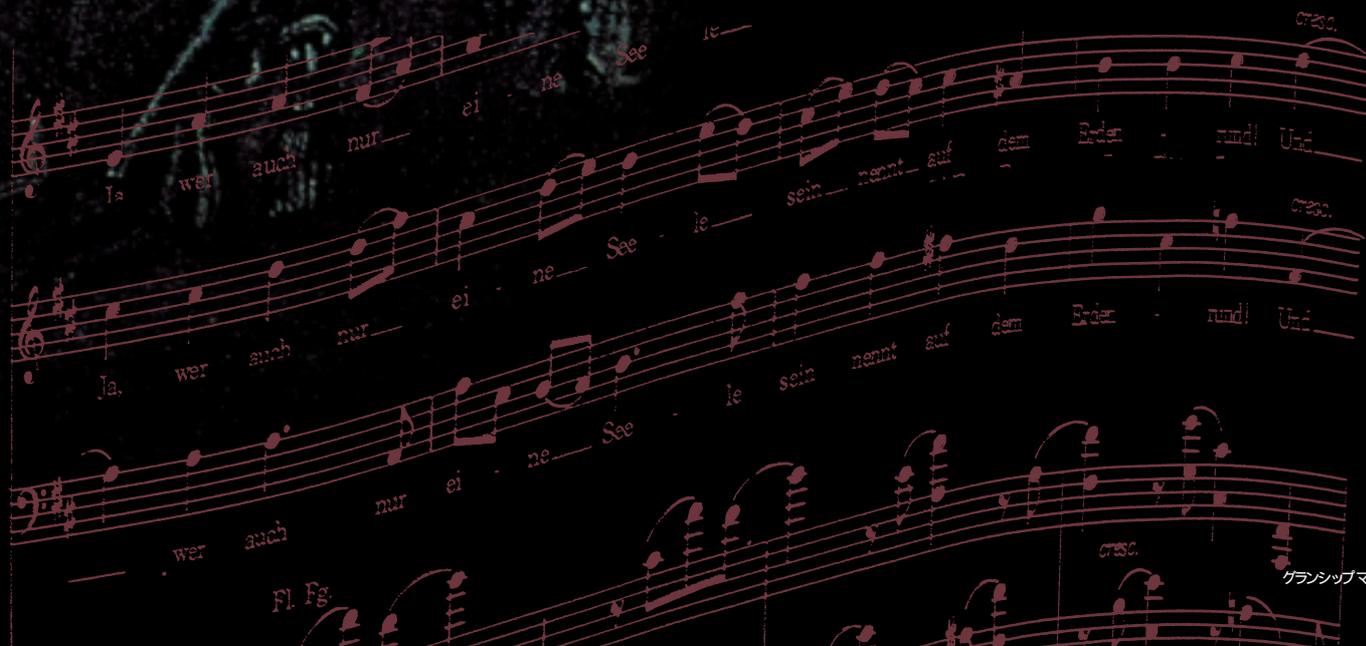


# いま 第九を 知る。

Beethoven Symphony No.9 D minor Op.125 'Choral'  
mit Schlusschor ueber Schiller Ode 'An die Freude'

ベートーヴェン交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

詩/シラー「歓喜に寄す」より



## ルードヴィヒ・フォン・ベートーヴェン

Ludwig Van Beethoven( 1770-1827 )

ドイツの作曲家。西洋音楽史における巨匠。城下町ボンに生まれる。幼少の頃より楽才をあらわし、アルコール依存症の父に代わり宮廷楽師となる。やがてウィーンに行き、作曲家ハイテンに弟子入りし、ピアニストとして社交界の花形となる。今日有名な作品のほとんどは、交響曲第3番「英雄」から第8番までの10年間に書かれ、この10年間で「英雄の時代」「傑作の森」と呼ぶ。1798年より聴覚障害があらわれ、次第に悪化。晩年、病床にあっても名声は高く、見舞いの品と手紙に囲まれて、ウィーンで死去。葬送の行列を数万の市民が見送ったという。



なぜ年末？やっぱり年末！  
音楽納めとして聴きたい『第九』。

直径12センチのCD。これ一枚に収録できる音は現在80分。しかし、当初は74分だった。なぜ74分だったのだろうか。実はベートーヴェンの交響曲第九番、つまり世にいう『第九』を一枚に収録するために定められたサイズだったのだ。それほど『第九』は、世界中の人々に愛される合唱曲、いの一番の名曲なのである。長野オリンピックの開会式では、小澤征爾氏指揮による世界6都市同時中継。同時、『第九』合唱が敢行されたことも記憶に新しく、EUの国歌(?)になつたことでも、ある種作品の別格化を強めたといっている。しかし、この作品に最も熱いラブコールをおく

るのは、もしや我々日本人ではないだろうか。とくに年末ともなると、『第九』か、『忠臣蔵』かというくらいのお決まりの十八番。この現象を『第九狂騒曲』とひやかす向きもあるほどだ。実際、毎年末に行われる第九コンサートは、100とも150ともいわれている。

年末「第九の始まりは、昭和18年。東京音楽大学現在の東京芸大音楽部委楽堂で行われた出陣学徒のための壮行会だったといわれる。入営間近の12月初旬、繰り上げ卒業式として行われた音楽会で、『第九』の第4楽章が演奏された。例の合唱付の部分である。やがて終戦を迎え、

生きて帰った者たちは、あの第九を再びと演奏会を開催。つまり、暮れの第九は、戦場に散った音楽学徒の鎮魂歌に端を発したのである。その後、日本経済は復興し、オーケストラ団員の年越しの資金を得るため、年末に『第九』が演奏されるようになり、それが定着して今日に至るといふ。

ただ、この年末「第九の慣習は決して日本だけのものではなく、ライプチヒやミュンヘンにおける第九コンサートを知る人も多いと思う。苦惱を乗り越えて歓喜へと向かう作品テーマは、年末にぴったり。希望を持って新年を迎えるにふさわしい曲である。



昨年の「新世紀コンサート」より。静岡交響楽団の演奏に、新世紀コンサート合唱団と同児童合唱団の総勢210余名の素晴らしい合唱がクリスマス・イブのひとときを彩った。

ベートーヴェンは感じていた。  
最後の交響曲になるかもしれないと。

4つの楽章からなる『第九』は、古今の交響曲の中でも名作中の名作と謳われるだけあって、始めから終わりまで、すべてが聴きどころであり、演奏家や評論家の間では、音楽的完成度において、今後これを超える作品は現れないだろうとまで言われている。なかでも特筆すべきは交響曲に合唱を加えたことで、ベートーヴェン本人も初演の後、親しい友人に、あれは間違いだろ。器楽による別のフィナーレを書き直そうと思う」と語ったといつづら、前代未聞の試みであった。

その合唱は、最終楽章に登場する。音楽の授業で習い、誰もが口ずさんだことがある、『喜びの歌』もしくは『歓喜の歌』という名の、  
歴史上の最高傑作をナマで聴く。  
これぞ、喜び。歓喜のひととき。

この交響曲は、半年余りの歳月をかけて、ベートーヴェン54才の2月に完成する。初演は、同年の5月7日金曜日。午後7時から、ウィーンのケルトナートーア劇場で、ベートーヴェン総指揮にて行われた。しかし、すでに彼の耳はまったく聞こえなくなっていたため、実際の指揮を務めたのは、ウムラウフ楽長とコンサートマスターであるシムパツヒであった。

演奏は風のような拍手に包まれ、圧倒的な成功を収めるが、客席に背を向けていたベートーヴェンはそれを知らず、しばらく茫然と立っていた。見かねたアルト歌手が彼の手を取り、その身体を聴衆に向け、そこで彼ははじめて、生涯の力作が聴衆を熱狂させたことを知るのである。

『第九』、とくに最終楽章の「合唱」は、ナマで

あの曲である。ただし、その歌詞がもしも、晴れたる青空たたよう雲よ……で始まるものであったら、それは原曲の意とは随分違うものだ。

原曲で歌われているのは、フリードリヒ・フォン・シラーの詩「歓喜に寄す」。喜びこそ、美しい神の閃光、楽園の娘たちよ、われわれは情熱的に酔いしれて、天の聖堂に踏み進もう……人類愛と何百万という人々の団結による人間解放を高らかに歌うこの詩を、シラーはドレスデンのエルベ河帯に広がる美しいブドウ畑で創作した。当時、ベートーヴェンの生地ボンの青年たちは、これを盟約の歌として喜び、ベートーヴェン自身もボンで暮らす頃より、この詩に曲を付けることを考えていたという。

聴く（あるいは歌う）にまさるものなしといわれる。管弦楽の序奏に始まり、それを受けてバリトンの独唱が続く。ここで歌われる「友よ、これらの音楽ではなく、快く高らかに声をあげよう、喜びをこめて」という意の歌詞は、シラーによるものではなく、ベートーヴェン自身が書いた句である。そして、いよいよシラーの「歓喜」が歌いあげられていく……。

もしも、まだ一度もナマで『第九』を聴いたことがないというのなら、ぜひこの12月、グランシップに足を運ばれることをおすすめしたい。完成された音符の並びに、力強くも美しい詩が乗り、2000名を超える人々によって放たれるとき、その感動は唯一無二のものとなるに違いない。

そして、この世紀の傑作は、おそらく永遠に、日本の年末に響く名曲であり続けることだろう。

既成概念を捨て、中身のあるプログラムを。



堤 俊作(指揮者)

静岡交響楽団にて音楽監督、指揮者を務める。今年からグランシップ静岡コンサートシリーズマスター。

地域に音楽文化を根づかせるためには、行政の理解は欠かせません。もちろん静岡マスター一人一人もオケを盛り立てようと12年間頑張ってきたのですが、のんびりした土地柄のせいか、これがなかなか前に進まないんですね。それが今年、静岡県文化財団の応援を得て、ようやく念願のコンサートシリーズを始めることができたというわけです。ただ、若いオーケストラで

すから、お客さんに喜んでいただくと同時に、1回ごとに勉強して着実にレベルアップを増やしていくことも大切です。そして、そのためにはプログラムの組み方を今後考え直す必要もあるのではないかと感じます。せちかくの交響楽団ですからシンフォニーの聴かせどころのある曲も入れたらいいし、第九も来年こそは全楽章通して聴いていただきたい。当然ながら、

難しい交響曲ばかりを選ばなければならないし、マニアックになることもないんです。難しい曲をやっても静岡のお客さんは来ない。知っている曲の方が喜ばれるという既成概念があるようですが、私はそれが真実とは思いません。企画する側はマニアルではなく、その中身を熟考し、音楽的にきちんと聴けるコンサートを提供するべきではないでしょうか。

クラシック音楽用語解説

【モチーフ】

象徴的な楽句で、「ジャジャジャーン」と始まるベートーヴェンの「運命」冒頭など。

【タンギング】

管楽器の演奏技法の一つで、舌で空気の流れを止めることで音を区切っていくこと。

【ヴィブラート】

ふるえる、という意で、声や音を美しく響かせるために用いられる。

【ヴィルトーゾ】

本来は芸術や道徳に優れた人の称で、現在とはとくに音楽で技巧の優れた演奏家に冠する言葉。

【ピッチ】

音の高さ。

【マエストロ】

主に芸術方面での大家を指す。巨匠。

【コンサートマスター】

オーケストラの第1ヴァイオリン首席奏者。略してコンマス。

【作品番号】

作曲者あるいは出版社が作曲順につける作品の通しナンバー。Opusを略してOpと表記される。バッハはBWV番号、モーツァルトはK(ケツヘル)番号との併用も。

【スタッカート】

音と音の間を切って、音をあげる奏法、歌唱法。

【ファルセット】

裏声で高い声区を歌う技法。

【ブレス】

息継ぎ。声楽、管楽器の重要なテクニックの一つ。

【レパートリー】

演奏家がいつでも演奏できるように用意している曲目。

グランシップ静岡コンサートシリーズV

新世紀第九コンサート  
地球讃歌 ~ 富士山 ~

曲目 / ベートーヴェン作曲「交響曲第九番 合唱付」ほか

出演 / 静岡交響楽団、新世紀コンサート合唱団、静岡児童合唱団ほか

12/22(日)

PM1:00開場 PM2:00開演

グランシップ 大ホール・海

9/29日チケット発売

全席指定 S席 4,000円 A席 3,000円 B席 2,000円 税込

主催 / (財)静岡県文化財団、静岡朝日テレビ



堤俊作(指揮) Shunsaku Tsutsumi

桐朋学園大卒。72年東京交響楽団でデビュー。東響・札幌の指揮者を歴任。東京シティフィル・ロイヤルメトロポリタン管弦楽団・静岡交響楽団の創設指導にあたる。海外でも78年ジュネーヴ国際音楽コンクール指揮者部門優勝のほか、ロンドン交響楽団、スイス・ロマン管弦楽団等に客演。また松山バレエ団や牧阿佐美バレエ団を率いての海外公演でも活躍。現在は静岡音楽監督、ロイヤルチェンバーオーケストラ 音楽監督。

静岡交響楽団(演奏) Shizuoka Symphony Orchestra

88年結成の「静岡室内管弦楽団カペレ・シズオカ」を前身とする楽団で、静岡県内在住、あるいは県出身者で東京を中心に活躍するプロの演奏家で構成。古典派からロマン派までの交響曲・協奏曲の演奏を中心に活動している。

# 田辺聖子

## 人生で読む源氏。

「源氏」といつ山にはどの道から入ってもいいのね。

近道の直線を行ってもいいし、

景色を楽しみながら頂上へでもいい。

人生と、その人の持ち時間によつて選べるから。

自分の人生と照らしてわかるという部分もある。

源氏を読むということは人生で読むということだね。」

### 保たれる千年の命。

氏のような手引役がいなければ、その物語は名作のまま、千年の昔に置き去りにされていたかもしれない。源氏の世界にさまざまな光をあて、現代の言葉、現代の感覚で氏が語るとき、そこに立体的でリアルな光源氏が浮かび上がる。まるで着物に焚きしめた香がかすかな身体の動きにふとこぼれるように、氏のやわらかな声は、平安の物語の扉をそと開け、雅なる物語の真実を垣間見せてくれるのだ。

——小さい頃より読書がお好きだったとうかがいますが、『源氏物語』にはいつ頃

出会われたのですか。

「戦前には女学生が読むよつな源氏物語はまだまだ出てなかったのね。谷崎潤一郎先生のものだけ。でも、これがまた難しくして、須磨がえり、明石がえり」

須磨の巻の巻末に「須磨の巻の巻末に「須磨の巻の巻末に」

「あ、先生は原文にかなり忠実なのね。若い読者にわからせるように書く」という気持ちちはおありにならない。だから、最後まで読まず、戦後になって与謝野晶子先生のを讀みました。でも、なんだか随分と下世話に碎けた源氏だなどという感じがしましたね。それから円地文子先生もお出しになられたので、それを読んで。岩波書店の学術書な

ども少しづつかじっていったんです。で、書く(き)かけは、週刊朝日だったのね。源氏をわかりやすく書いてもらえませんか。それならば、こちらには子供時代の経験がありますからね。現代語訳とはいえ、逐語訳ではとてもわからないから、いつか全部バラして、小説として構築し直したほうが若い人たちにわかりやすいんじゃないかなと思っ

「その『新源氏物語』は、二百万人の読者を得ているとのことですが。」

「『源氏物語』そのものがきつちりとした骨格の小説で、永久に変わらない人間の喜怒哀楽、人生の生きる楽しみ苦しみ書かれています。これは千年の命を保つて当然なのね。だから、それをわかりやすく書くかどうかにあつたわけ。現代の人たちにも納得できるよつな、それでいて原典の持っている上品さを失わないよつにして。わかりやすくして、

上品で、面白くなくてはいけない。原典にない台詞を原典の文章からイメージして付け加えて。現代という太いパイプで繋がって書いてから、おわかりになりやすかつたんじゃないかしら。それまでそんな風に『源氏物語』に取り組む人はいなかつたし。でも、これは女の作家がする仕事だと思つた。学者先生はきちんと言葉の端々に至るまで「研究なさつて、私たちはそれを享受させていたただけなんだけど、それを噛みしめていただくやすくお伝えするのは、男性作家よりも女



毎月一回行われている大阪リーガロイヤルホテルの連続講演が三冊の本に、複雑な源氏物語の面白さが一気にわかる。『源氏』全3巻、新潮社刊。

## 今めかしい、紫の上。

性作家の仕事かもしれないなあと思つたのね。だいたい原作者が女性ですから。だから、私が書いて、瀬戸内(寂聴)さんもお書きになつて、その後の女流作家もお書きにな

「紫式部は、随分男性の世界にも通じた人だつたよつに思われますが。」

「それはもう、もの凄く読まれたの。だつてあの時代、男の人たちは女の書いたものなん

て読まないのに、誰もが先を争つて読んだの。その後、二、三十年後のことですから、上総の国で十三才の少女が都で流行っている『源氏物語』を読みたいとせがんだというところ、更級日記に書かれています。つまり上総という国にまで及んだということとは、凄いベストセラーであつたといつことなのね。もちろん字が読める階級のことではあるけれど、読んだら、皆書き写す。だから、片端から手にとつて書かれたり読まれていったといつことですね。」

「紫式部は女も好きだつたけれど、男も好きだつたんですよ。光源氏のほかに、魅力的な男性たちがいっぱい出てきますから。若い時の男なら、わりあい女流作家の手に合つたんですよ。ところが四十、五十の、中年、初老になってくると、そつじやない男性の素敵さを書くといつのは、女流作家には難しいの。でも、光源氏はちゃんと歳をとることに魅力的になつていくのね。それを歳をとつたところまで読まないで、初めのほうだけ読んでると、単なる浮気男でドンファンで、そして、女の人の魅力を書き表すための狂言回しのように思われてしまふ。だけど、そつじやなくて、いづつがあるんですね。光源氏もよく読むと素敵な男よ。だんだん偉くなりまします。じゃあ、偉いばかりかといつとそつじやなくて、また若い綺麗な子が現れると、そつじやないところがあるから、いかに人間

「女の人なら紫の上ですね。あの人は何にもなくて、ただいるだけ、どこが魅力あるんですかとおしやる方がいますけれど、ただいるだけといつのが難しく、源氏にはたくさん女の人が傍にいて、それでも波風立

「紫式部は、随分男性の世界にも通じた人だつたよつに思われますが。」

「紫式部は女も好きだつたけれど、男も好きだつたんですよ。光源氏のほかに、魅力的な男性たちがいっぱい出てきますから。若い時の男なら、わりあい女流作家の手に合つたんですよ。ところが四十、五十の、中年、初老になつてくると、そつじやない男性の素敵さを書くといつのは、女流作家には難しいの。でも、光源氏はちゃんと歳をとることに魅力的になつていくのね。それを歳をとつたところまで読まないで、初めのほうだけ読んでると、単なる浮気男でドンファンで、そして、女の人の魅力を書き表すための狂言回しのように思われてしまふ。だけど、そつじやなくて、いづつがあるんですね。光源氏もよく読むと素敵な男よ。だんだん偉くなりまします。じゃあ、偉いばかりかといつとそつじやなくて、また若い綺麗な子が現れると、そつじやないところがあるから、いかに人間

後に続く女流作家にも源氏を書くことをすすめたいという。「川上弘美さんなんかにも言ってるのね。確かに一年二年の勉強ではないけれど、今から気持ちをひそめていただいたら、四十代、五十代になって、やってみようとお思いになったとき、そこでその時代の源氏がまたできると思うの。」



【たなべせいこ】

作家。1928年大阪の写真屋の長女として生まれる。樟蔭女子専門学校国文科卒業後、大阪の金物問屋に就職。その傍らで投稿生活を送り、同人「文芸首都」「大阪文学」に所属。『花狩』がラジオドラマに採用され、放送作家として活躍。その後、大阪弁での恋愛小説のスタイルを確立。63年『感傷旅行』で芥川賞受賞。小説のほか、エッセイ、評伝など著書はおよそ240冊にも及ぶ。古典に造詣が深く、関連著書多数。なかでも78～79年に刊行された『新源氏物語（全五巻）』は200万部を突破。『花衣ぬぐやまつわる - わが愛の杉田久女』で女流文学賞、『ひねくれ一茶』で吉川英治文学賞・菊池寛賞受賞。

モダンだったというのね。それは精神が活発だから。今の流行りがバツとわかるのね。モダンでセンスのいい人は、普通、人に敵しいわけ。ところが紫の上はそれもないの。とらわれた観念のない人でしょう。面白い人だなあと思うのね」

——「田辺源氏」と称される、先生のお書きになる源氏モノは、アングル、趣向もさまざまですが、

「源氏といつ山には、どの道から入ってもいいのね。近道の直線を行ってもいいし、遠回りしてまわりの景色を楽しみながら頂上へというやり方でもいい。人生と、その人の持ち時間によって選べるから。勉強にはご縁といつがあるの。その人生の、その時に巡りあったという、そういう縁があるのね。だから、早くから勉強しなければいけないといつでもなくて、ちょうど行き当たった時に楽しんで読めればいいですね。自分の人生と照らし合わせてわかるという部分もありますからね。やはり源氏を読むといつことは、自分の人生で読むといつことよ。学殖で読むのではなく」

——『ユセイ集 楽老抄』の中で、教養とはまわりくどいものといわれ、とくに古典の教養について記されていますね。

「古典に親しむことは、日本語の語彙、ボキャブラリーを多くすると思つたの。学校で英語力のことばかり言われているけれど、英語で何をしゃべるか、その核がでなければ何もならない。小さな子一人一人の体の中に僕はこつこつと、私はこつこつと考えを持ってい

る、そういうことを育てることがまず第一でしょう。それには小学生のうちから古典に親しむことだと思つたの。私が言っているのはね、まず小学生に百人一首を覚えさせましよう。あれを覚えたら、体で日本語の文法をするという感じ。係り結びの法則なんて、習わなくても入っちゃつんですからね。小学生で覚えて、中学を卒業する頃には百首の意味がわかってくる。高校では作者の運命がちゃんとわかるようになる。天智天皇の秋の田のが第一番でしょ。そこから(藤原定家が生きていた中世までの歴史が頭に入っちゃつと思つたんですよ。それが教養のい・と・み・ち・をつ・く・つ・て・い・く・といつことなのね」

——この10月には、グランシップでお話聞けるといつことですが、

「静岡でおしゃべりするの、初めてなの。紫式部は何を書きたかったのかといつこととか、光源氏の魅力や紫の上の魅力、伝統がどんなふうにして今の私たちに伝わっているかといつ、そういうことをお話ししたいと思つた。源氏は権威だけ祭りあげられて、庶民の血肉にならなかつたといつのは、その手引き役が怠慢だら証拠。まあ、明治までは不敬罪といつのがありましたから、皇室の恋愛の話はけしからんといつことだつたのね。昭和になつてからも劇化の企画はあつたんですけれど、なんべんも禁止されているの。だから、『源氏物語』といつのは受難の書でもありますね。『源氏物語』って、とても素敵なのよ、お読みになつてね、といつことが最大のテーマです」



チケット発売中 **10/6** 日  
田辺聖子トークショー  
**「源氏がたり」**  
PM1:30開場 PM2:00開演  
グランシップ 会議ホール・風  
全席指定 2,000円 辻村寿三郎人形展入場券付・税込  
P4~参照